

2020年度
事業計画書
収支予算書

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

2020年度事業計画

■ 基本方針

今年開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に、全ての人が共に生活できる社会の実現を加速させるため、展覧会および舞台芸術公演等を開催し、これら事業の実施を通じて多様な価値観や生き方があることを伝え、それぞれの個性を祝い、支えあう社会のあり方を探り、人々の固定観念を変える契機となることに寄与することを目的として事業を行う。

■ 障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信

1. 目的・目標

障害者による表現活動を展覧会、Web、紙媒体、公募事業等を通じて周知し、それをきっかけに障害者への理解を高め、より良い在り方や新たな関係性や試みを生み出し、多様な個性を祝うインクルーシブな社会の実現を目指すことを目的とする。

本事業の推進により、1)障害がある人が製作するアート作品及び「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」の取り組みに対する認知拡大を促進し、2)展覧会等の実施や情報発信を通じて障害福祉に関わる意識変革を推進し、3)障害がある人自身が自己の可能性を見出し、自己実現の可能性を高める一助となり、4)本年開催する東京オリンピック・パラリンピックに向け機運の醸成を図ることを目指す。

2. 事業内容

a. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」

2020年に東京で開催するオリンピックとパラリンピックを契機に、全ての人が共に生活できる社会の実現を加速させるため、大規模なアートイベントを開催する。日本財団所蔵作品や他作品の表現を活かし、多彩な展示を構成するとともに、アクセシビリティに配慮した会場を体現する。更に、ウェブサイトや広報活動による情報発信を積極的に行い、様々な領域を対象とした一層の周知拡大を図る。

誰もが参加できるインクルーシブな社会を実現するため、この分野に接点のない一般層を主なターゲットとし、計10万名の参加を目標とする。“わくわく”、“ドキドキ”や“楽しい”、“面白い”といった共感と行動を引き起こし、障害に対するイメージを変容させるムーブメントを生み出す。

b. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」の準備

時 期 2020年4月～2020年6月

内 容 広報活動、会場改修工事、会場施工及び作品搬入・設営

c. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」の開催

会 期 2020年7月18日(土) ～ 2020年9月6日(日) 計51日間(予定)

時 間 11:00～20:00(予定)

場 所 船の科学館(東京都品川区東八潮3丁目1)

入 場 料 無料

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

対 象 一般

来場者数 100,000名(目標)

内 容

- ・ 全国の障害のある作家や著名作家の作品展示
- ・ テクノロジーやスポーツに関連する展示
- ・ 会場ライトアップ
- ・ 関連イベントや交流プログラムの実施
- ・ 広報展開や情報発信
- ・ その他(飲食、ショップ等)

d. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展（仮称）」の事後業務

時 期 2020年10月～2021年3月

内 容 作品撤去・返却、会場撤去・現状復帰、報告書の作成

e. 「第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」展覧会の開催

2019年度に募集した作品の中から主として入選作品を展示した展覧会の開催。

名 称 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2019

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団(横浜会場)

協 力 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

Bunkamura(東京会場)

展覧会アートディレクター 中津川浩章 美術家/アートディレクター

会 場 <東京会場>

会期 2020年4月12日(日)～4月22日(水)

時間 10:00～19:30

会場 Bunkamura Gallery/Wall Gallery

<横浜会場>

会期 2020年4月25日(土)～5月1日(金)

時間 9:30～18:00 (26日(日)、29日(水)祝は17:00まで)

会場 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

内 容 <東京会場>

・受賞作品（11点）、入賞作品（57点）、国外佳作作品（4点）、別枠作品（11点）の展示

・「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」の開催

日時 2020年4月19日(日) A. 10:30～12:30 B. 15:00～17:00

2020年4月20日(月) C. 13:00～15:00 D. 17:30～19:30

講師 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

定員 各回7名程度(申込多数の場合は抽選)

参加無料 要申込

<横浜会場>

・受賞作品（11点）、入賞作品（57点）の展示

f. 「第3回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」の開催

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害のある人を対象にしたアート公募展を実施。

(1) アート作品の公募

・期 間 2020年6月15日(月)～7月5日(日) ※国内外応募一斉受付

・募集内容 国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。

・応募点数 各作者につき3点以内

・出品規格 絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。
素材やテーマは自由。

平面作品 縦200cm×横120cm以内

立体作品 高さ200cm×幅150cm×奥行150cm 重量50kg以内

(2) 公募作品の審査・選考

・審査員 秋元 雄史

東京藝術大学大学美術館館長・教授／練馬区立美術館館長

上田 バロン

FR/LAME MONGER 代表／イラストレーター

エドワード M. ゴメズ

RAW VISION 主任編集者

藏座 江美

一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事

中津川 浩章

美術家／アートディレクター

永野 一晃

写真家

望月 虚舟
書家

・ 審査方法 <一次（書類）審査>

国外は7月、国内は8月に審査員による写真審査を実施。一次（書類）審査を通過した作品は二次（現物）審査に。

<二次（現物）審査>

一次（書類）審査を通過した作品の中から、審査員立会いのもと、審査員賞/海外作品賞/入賞/佳作作品等計約100点を選出。

・ 現物審査実施日 2020年9月21日(月)祝

・ 現物審査会場 国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）

(3) その他

・ 授賞式の開催準備

・ 展覧会の開催準備

・ 図録、広報物の制作、発送

g. 情報発信

(1) Webメディアによる情報発信

Webサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を運営し、実施事業の告知とともに、国内外の障害者芸術に関わる取材・ニュース記事コンテンツを継続的に公開発信し、内容の充実とユーザーの確保に努める。

日本語記事の適切な英訳を進め、海外の関心層にも日本のアート活動を紹介する。

コンテンツを整理・アーカイブ化し、Webサイトの構造的により効率的な情報発信とユーザーの利便性及び集客数向上を図る。

(2) ソーシャルメディアの活用

SNS（Facebook、Instagram）とメルマガの戦略的運用とフォロワー数の増加を目指し、Webサイトへの誘導と実施事業の周知を促す。

(3) 紙媒体による情報発信

Webメディア記事と連動した内容のフリーペーパー「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」を年2回発行し、全国への発送・配架依頼を進め、より多くの人への認知度をあげる。

実施事業などのイベント会場で、バックナンバー含めたフリーペーパー配布とプロモーションを行う。

オリンピック・パラリンピック期間中のインバウンド需要に対応して、英語によるフリーペーパーを制作・発行する。

■ 多様性をテーマとした舞台芸術の活動

1. 目的・目標

パフォーマンスアート・グループでは、2019年より、障害・性・世代・言語・国籍などの違いを超え、誰も孤立することのない、皆が支えあう社会の実現を目指し、多様性をテーマとした舞台芸術の取り組みを行っています。ダンス、音楽ライブなど様々な企画によるシリーズはマスメディアやインターネットを通じて多くの注目を集め一定の効果を生んでいます。一方、上述の社会の実現に向けて、さらに社会的波及効果を高め、広く国内外へメッセージを伝えるためには、オリンピック・パラリンピック開催時期に続く継続的な取り組みが必要であると考え、引き続き、その機運を生かした多様性をテーマとする舞台芸術事業を展開します。

さらに、2020年夏までの一過性の活動に終始せず、その後も障害や様々な差別・偏見と向き合うアーティストの育成やそれらを通じた情報発信を行うことで、2020年を契機に広く社会に意識の変容が生まれることを目指します。

2. 事業内容

1) 多様な個性のあるアーティストとの連携による舞台芸術シリーズの実施

a. 日本で活躍する外国籍やハーフ、二世三世のアーティストらによるライブ&ダンス・パフォーマンス「True Colors MIX」

- ・時期 2020年4月10～12日
- ・場所 渋谷ストリーム 稲荷橋広場
- ・内容 国籍や言語の多様性をテーマに、日本で活動する外国籍やハーフのミュージシャンやアーティスト、ダンサーらを招いて、ストリート・パフォーマンスやワークショップを実施。

b. ろう者と聴者によるアメリカの劇団 Deaf West Theater による演劇公演「True Colors SIGN」

- ・時期 2020年4月24～26日
- ・場所 シアタートラム（世田谷・三軒茶屋）
- ・内容 アメリカのロサンゼルスを拠点に活動する、ろう者と聴者による劇団「Deaf West Theatre（デフウェスト・シアター）」による新作「オルフェ」の日本公演を開催。障害者当事者による劇団として初めてブロードウェイで賞を取るなど、高い評価を得ているプロフェッショナルの劇団による上演と、高校生や若者に向けたワークショップ等を実施。

c. スローレーベルによるソーシャル・サーカス・パフォーマンス「True Colors CIRCUS」

- ・時期 2020年5月9～10日
- ・場所 池袋西口公園 野外劇場

- ・内容 横浜を拠点に活動する NPO 法人スローレーベルによる、サーカス・パフォーマンス。シルク・ド・ソレイユに学び実践するソーシャル・サーカスの手法を生かし、約 60 名の多様な障害者とともに豊島区池袋の野外ステージにて上演。

d. 渋谷駅周辺でのツアーパフォーマンス「True Colors THEATER」

- ・時期 2020 年 6 月下旬
- ・場所 渋谷駅周辺
- ・内容 LGBTQ や性のあり方をテーマに、渋谷駅周辺で複数のパフォーマンスを展開。街中でのフラッシュモブのほか、バスに乗って上演会場を回りながら演劇を鑑賞するツアーパフォーマンスを実施。様々な会場を回ることで、多様性に触れる場とする。

e. 多様性をテーマにした国際シンポジウム（仮称）

- ・時期 2020 年 7 月
- ・場所 東京都内
- ・内容 多様性をテーマにした国際シンポジウムを開催。国内外からゲストを招いた基調講演やシンポジウムを開催。国内外で活動する障害当事者による芸術団体や関係団体によるネットワークの場や、2020 年以降の活動につながる場として実施。

2) 情報発信と広報 PR の実施

ホームページやプロモーションビデオを利用した情報発信のほか、チラシ、ポスター、インターネット、ソーシャルメディア等、さまざまな媒体を通じた広報・PR 活動を行う。10～20 代へリーチするツールの活用から、全国の芸術文化施設や福祉関連施設との連携など、社会的波及効果を高める。国内外のマスメディアによる取材や番組制作の可能性を探る。

3) 障害のあるアーティストや差別や偏見をなくすため社会課題に取り組むアーティストの育成や支援を行う

国内外のパフォーミングアーツに関わるアーティストや関連団体の調査を実施。育成や支援のプログラム策定とプログラムの実施準備を行う。

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 収支予算

2020年4月1日～2021年3月31日

収入の部		支出の部	
事業活動収入		事業活動支出	
1. 事業活動収入	1,572,030,025	1. 事業活動支出	1,475,330,000
基本財産運用収入			
助成金収入計	1,572,030,000		
障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信(基盤整備)	133,280,000	障害者の芸術活動に関わる展覧会の運営及び情報発信(基盤整備)	36,580,000
企画展「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS企画展2020(仮称)」の開催	963,110,000	企画展「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS企画展2020(仮称)」の開催	963,110,000
障害者のアート作品を展示する公募展の開催	43,640,000	障害者のアート作品を展示する公募展の開催	43,640,000
多様性をテーマとした舞台芸術の活動	432,000,000	多様性をテーマとした舞台芸術の活動	432,000,000
雑収入(受取利息)	25		
2. 投資活動収入	0	2. 管理費支出	96,700,000
		3. 予備費支出	0
当期収入合計	1,572,030,025	当期支出合計	1,572,030,000
前期繰越収支差額	1,982,388	当期収支差額	25
収入合計	1,574,012,413	次期繰越収支差額	1,982,413